

Virtustream: ミッションクリティカルなアプリケーションのクラウドプロバイダーを選択するときは信頼性がすべて

ビジネスのモダナイズを模索している組織は、自力で達成する難しさをよく理解しています。トランスフォーメーションを実現するには、通常、クラウドに移行する必要がありますが、これには多くの場合、ミッションクリティカルなコアシステムの移行が含まれます。これらのコアシステム（製造システム、eCommerceシステム、ERPシステム）はビジネスを促進して、重要なデータを管理します。

これらはシンプルなアプリケーションではなく、クラウド環境への移行は簡単なことではありません。これらのアプリケーションは、コミットされたサービスレベル、堅牢なセキュリティ、そしてますます複雑になる一連のコンプライアンス要件によって保護される、整合性のとれた確実なハイパフォーマンスを必要とします。エンタープライズ環境のお客様は、これらのアプリケーションに関連するリスクを理解し、トランスフォーメーションプログラムを進めるために信頼できるプロバイダーと連携する必要があります。

Virtustreamのクラウド運用、移行、管理サービス、セキュリティ、コンプライアンスプログラム、データプライバシープラクティス、サービス品質はすべて、世界中の主要な組織との間で築かれてきた信頼性を維持できるように設計されています。

このホワイトペーパーでは、セキュリティ、コンプライアンス、プライバシー、透明性、サービス品質という、Virtustreamの信頼性を築いた5つの原則を説明します。

セキュリティ

Virtustreamのセキュリティ基盤は、その資産の機密性、完全性、可用性を保護するCIAの3要素モデルに基づいて構築されています。Virtustreamのトップダウンアプローチは、シニアエグゼクティブリーダーシップから始まり、当社の多層防御セキュリティ態勢のあらゆる側面に関して詳細かつ広範な適正評価を伴います。Virtustreamの人員、プロセス、テクノロジーは、信用、透明性、信頼性、拡張性、アカウントビリティ、監査適合性、イノベーション、自動化に取り組んでいます。このパラダイムには、ルータ、ファイアウォール、脆弱性のスキャナー、侵入検知、内部監査と外部監査、リスク管理、ガバナンス、最低限の権限、知っておくべき原則、IDとアクセス管理、広範な審査と経歴調査を受けた技術スタッフ、包括的な変更管理、インシデント対応計画、ファイアウォールポリシーレビュー、ファイル整合性の監視、監査ログの相関とレビュー、全従業員に対する必須のセキュリティ意識トレーニングが含まれます。

VirtustreamのIaaSクラウドサービスは、厳しい管理的、物理的、および技術的制御を強化しながら、境界領域防御、ネットワークセキュリティ、ホストセキュリティシステムの強化、テナントの分離、安全な開発ライフサイクル、データプライバシー、データ保護を実現するため、業界をリードするセキュリティ機能を採用しています。

Virtustreamのセキュリティ機能で対処できる主な領域は次のとおりです。

責任モデル

セキュリティは、Virtustreamとお客様の間で共有される責任です。Virtustreamの共有責任モデルは、コンプライアンスを達成するために、Virtustreamが実装するコントロールとお客様が実装する必要があるコントロールを明確に示します。



Virtustreamの責任 - クラウドのセキュリティ

Virtustreamは、すべてのVirtustreamクラウド サービスを運用するインフラストラクチャのセキュリティと保護を担当します。このインフラストラクチャは、ハードウェア、ソフトウェア、オペレーティング システム、ネットワーキング、施設で構成され、特定のアプリケーションのデータベースを含むこともできます。従来のクラウド モデルでは、アプリケーション、ユーザー アクセス、データベースはお客様の責任でした。Virtustream Managed Servicesを使用すると、お客様はさらに運用をシンプルにし、オペレーティング システムとデータベースのセキュリティをVirtustreamに移行することができます。

Virtustreamマネージド セキュリティ サービス

真のエンタープライズ クラスのエクスペリエンスを実現するため、Virtustreamは、Virtustreamマネージド セキュリティ サービスを使用して組織のクラウド サービスを強化することができます。

VM(仮想マシン)とネットワークレベルで利用できる完全なマネージド セキュリティ サービスには以下が含まれます。

- ウイルス対策/マルウェア対策: ウイルス、トロイの木馬、スパイウェアやその他の悪意のある活動を検出し、ブロックします。
- hIDS(ホスト ベースの検知システム)とhFW(ホスト ベースのファイアウォール): 高度なIDSエンジンとともに双方向のレイヤー4ステートフル ファイアウォールを使用すると、偵察スキャン、サービス妨害攻撃、SMBエクスプロイトなどの悪質なトラフィックや動作を防止、検出、ブロックすることができます。
- ネットワーク ベースの侵入検知システム: 変則的な動作と異常に基づいて、未知の脅威を評価するため、ベンダーによって提供される脅威シグネチャと、行動ベースラインの両方を使用して、ネットワークの脆弱性と未修正のシステムの利用を目的とした攻撃など、ホスト型資産に対するネットワークレベルの脅威を検出します。
- FIM(ファイル整合性の監視): レジストリ値、レジストリ キー、サービス、プロセス、インストールされているソフトウェア、ポート、およびファイルへの変更を検出します。
- TDE(透過的データ暗号化、静止データ): テナント環境でデータベースのデータ部分を格納するディレクトリのデータ アクセス ポリシー管理とともに、暗号化キーのビルドと管理機能を提供します。
- 脆弱性のスキャン: オペレーティング システムの脆弱性についてお客様のシステムをスキャンし、定期的な脆弱性レポートを生成します。このレポートは、お客様またはVirtustream AMS(アプリケーション マネージド サービス) チームのいずれかに提供されます。このレポートを使用

して、システムが最新の状態に保たれるようにメンテナンス期間とシステム パッチの適用をスケジュールすることができます。

お客様の責任 - クラウドのセキュリティ

お客様は、セキュリティ、ID、アクセス管理、ネットワークセキュリティなど、アプリケーションのアップデートとパッチの適用を担当します。

ホストとネットワーク セキュリティ

ホストとネットワーク セキュリティは、クラウドにミッション クリティカルなアプリケーションを移行する場合など、IT運用において重要です。Virtustreamは、データの保護に役立つ、ホストおよびネットワークレベルのセキュリティ オプションの包括的なセットを提供します。顧客分離機能は、Virtustreamの分離モデルにより提供され、お客様ごとに実装されます。これらのお客様は、VRF(仮想ルーティングおよび転送)とVLAN(仮想LAN)で論理的に分離されます。

クラウドにアクセスするため、Virtustreamはパブリック ネットワーキング、プライベート ネットワーキング、またはその両方の組み合わせを提供します。IPSEC VPNトンネル モードか、MPLS 直接接続に関係なく、エントリー ポイントは仮想ファイアウォールになり、IPアドレス空間を完全に制御して、その他のテナントとオーバーラップする可能性を排除します。お客様は、必要に応じてさまざまな専用のVLANとIPアドレス範囲を利用できます。ファイアウォール ルールは、Virtustreamによってハイパーバイザー レベルで適用されるVMごとに定義できます。

Virtustreamデータ センターの仮想プライベート クラウド内でトラフィックがルーティングされる方法をより詳細に制御できます。Virtustreamのセキュリティ サービスは、境界またはホストレベルで利用可能なさまざまなセキュリティ ツールを提供します。これらのオプションには、境界ファイアウォール、ホストおよびネットワークIDS(侵入検知システム)、ホストレベルのウイルス対策/マルウェア対策、脆弱性のスキャン、ファイル整合性の監視、および初期対応修復サービスが含まれます。お客様は、全般的なセキュリティをカスタマイズするオンボーディング プロセス中はVirtustreamプロフェッショナル サービスを使用し、オンボーディング中またはその後は追加のVirtustreamネットワーク マネージド セキュリティ サービスを選択することができます。

データ保護

Virtustreamでは、Virtustreamクラウドで組織の最も重要なビジネス アプリケーションとデータに必要なデータの整合性、耐障害性、可用性を確保するために重要な機能がデータ保護であるととらえています。

データ暗号化

データの整合性を確保するため、Virtustreamはクラウド環境



で暗号化テクノロジーを採用しています。その結果、データは静止中やアーカイブ中、トランザクション データベースでも安全が確保されます。ミッション クリティカルなアプリケーションにおけるVirtustreamのコア コンピテンシーに従って、Virtustreamは、SAPのアドオン暗号化オプションを提供し、HANAデータベースのパフォーマンスに悪影響を及ぼすことなくHANAワークロードを暗号化します。

ディザスタリカバリ

高可用性ワークロードを実現するため、Virtustreamでは、SLA (Service Level Agreement) によって保証される業界をリードするRPO (目標復旧時点) やRTO (目標復旧時間) 機能で、地理的に分散したデータセンターでのデータのレプリケーションを通じて、組み込み型DR (ディザスタリカバリ) を提供します。また、完全なディザスタリカバリ機能を必要としないお客様向けにデータ バックアップ/リカバリ オプションも用意されています。

Virtustreamは、IaaSレイヤーからオペレーティング システム、データベース、SAP Basisレベルまで、アップタイムSLAとともにディザスタリカバリ保護とデータ バックアップ/リカバリ ソリューションを提供します。これに対し、ほとんどのパブリッククラウドサービスでは、クラウド サービスの標準コンポーネントとしてディザスタリカバリやデータのバックアップ/リカバリ ソリューションを提供していません。この場合、お客様は自社でディザスタリカバリやデータのバックアップ/リカバリ ソリューションの設計、実装、テストを行うか、またはそのためのサードパーティ請負業者を雇う必要があります。

構成、ハードニング、脆弱性の管理

Virtustreamは、システム セキュリティが確保されるように、インフラストラクチャ構成における整合性、業界および規制のニーズを満たす機能強化、脆弱性を特定して修復するプロアクティブな対策など、さまざまな主要領域に重点を置いています。これらの領域の機能の多くは、Virtustreamクラウド サービスに標準装備されており、特定のお客様のニーズに対応するためのその他の機能はマネージド サービスとして提供されます。

構成

システム構成における整合性を確保することは、Virtustreamクラウド サービスの完全性にとって不可欠です。Virtustreamシステムでは、独立したサードパーティによる安全性の確認など、継続的なテストと監査を行っています。

ハードニング

Virtustreamでは、業界標準のベストプラクティスだけでなく、コンプライアンス、証明、フレームワーク、法律によって定められたさまざまな政府基準も満たすため、システムの堅牢性を高めています。該当するガイダンスに従って堅牢性を高めたインフラストラクチャが維持されるようシステム監査を定期的実施

しています。また、Virtustreamはお客様と連携して堅牢性強化実践のテストと評価を実施し、サードパーティ監査レポートなどの成果物をオン デマンドで提供しています。

脆弱性管理

脆弱性管理は、あらゆるセキュリティプログラムにとって不可欠です。Virtustreamでは、複数の部門にわたり多数のエキスパートがVirtustreamクラウド内のリスクを特定する職務を担当しています。さらに、脆弱性のスキャンをお客様のネットワークのマネージド サービスとしてご購入いただけます。Virtustreamの多様なセキュリティアナリストから成るチームは、大手企業だけでなく、さまざまな政府機関でも経験を培ってきました。

ID管理とアクセス制御

Virtustreamでは、Virtustreamクラウド サービスの整合性を確保するには、ID管理と強力なアクセス制御が不可欠であると考えています。

ID管理

Virtustream Enterprise Cloudでは、管理ポータルにアクセスするユーザーに対する標準認証プロセスとして、強力な二要素認証を採用しています。ユーザーは、ユーザーが選択したPINと、ソフトウェアまたはハードウェアトークンによって生成されるワンタイム パスワードによって認証されます。これにより、Virtustream管理コンソールへのアクセスはIDが確認されている許可されたユーザーのみに制限され、高い信頼性が確保されます。Virtustreamでは、iOS、Android、デスクトップ システムなど多様なプラットフォームのソフトウェアトークンに対応しており、Virtustreamの管理ポータル コンソールはhttpsによって保護されています。

アクセス制御

Virtustreamクラウド サービスへのアクセスは、IPアドレスに基づいたユーザー ロールとファイアウォール ルールの組み合わせによって制御されます。RBAC (ロールに基づいたアクセス制御) を使用すると、さまざまな種類のユーザーが作業を実行するために必要なリソースにのみアクセスできるようになります。デフォルトのロールには、読み取り専用、リソース作成者、システム管理者、テナント管理者、ユーザーがあります。各ロールには、デフォルト権限のセットが含まれています。組織の内部構造に合わせて権限をカスタマイズする場合も、数ステップで新しいロールを作成できます。監査上の目的から、24時間365日、すべてのプリビレッジド ユーザーが監視され、ログに記録されます。

さらに、Virtustream xStreamクラウド管理セルフ サービス ポータルを使用すると、エンタープライズ クラウド ポータルにアクセスできる特定のソースIPアドレスをお客様が指定できます。これにより、xStreamポータルにログインできるユーザーのIPアドレスが効果的に制限され、セキュリティがさらに向上し、クラウドへの不正アクセスの可能性が減少します。



セキュリティログと監視

Virtustreamは、セキュリティが企業や政府機関にとって極めて重要であることを理解しています。Virtustreamは、システムやデータに対する脅威が、脅威でとどまらずインシデントに発展しないように、セキュリティログを収集して監視します。

VirtustreamのSIOC(セキュリティインテリジェンスオペレーションセンター)では、一元化されたログシステムとSIEM(セキュリティ情報およびイベント管理)システムが使用されています。SIOCのアナリストがアラートを監視し、研究者が業界の動向と脅威インテリジェンスを調査して、ツールのエキスパートが継続的な監視と脅威の分類に基づいてアラートを生成します。また、Virtustreamは、Virtustreamと契約しているお客様に対して、プロアクティブに措置を講じて、Virtustreamでホストされているインフラストラクチャを監視します。Virtustreamではベストプラクティスに従い、PCI DSS要件に準拠するために一元化されたログシステムで少なくとも1年間、ログを保管しています。

Virtustreamの「ログ管理」マネージド サービスを購入しているお客様の場合、リアルタイムでVirtustreamクラウドにホストされている組織の環境で生じるセキュリティの脅威をVirtustreamのサポートスタッフがプロアクティブに監視します。VirtustreamのSIOCは、広範な一連のレポートを通じて、包括的なセキュリティとコンプライアンス態勢を提供するために必要な、24時間365日のオンコールサポートとツールを備えています。

Virtustreamアプリケーション マネージド サービスを使用するお客様は、Virtustreamを活用して、監査、コンプライアンス、および継続的な監視を目的としたアーティファクトを作成することができます。レポートについて、Virtustreamでは複数のCCP(共通統制プロファイル)を設計することもできます。

SDL(セキュリティ開発ライフサイクル)

Virtustreamクラウド サービスはミッションクリティカルなワークロード用途向けであるため、Virtustreamではセキュリティが常に最優先事項となります。Virtustreamは、SDL(セキュリティ開発ライフサイクル)プロセスを採用して、脆弱性の数を減らし、信頼性の高いクラウドプラットフォームを実現します。SDLは、あらゆる段階において開発コストを削減しながら、開発者がより安全なソフトウェアを構築することを支援する、ソフトウェア開発プロセスです。脅威のランドスケープの変化に伴い、VirtustreamはSDLを変更し、技術と攻撃者の高度化に対応していきます。

ポリシー、ガバナンス、およびリスク

Virtustreamのポリシー、ガバナンス、リスクプラクティスは、クラウドサービスのいくつかの重要な領域を網羅しています。

情報セキュリティ

Virtustreamは、ISO 27001:2013規格に認定されたISMS(情報セキュリティ管理システム)ポリシーを採用しています。:ま

た、情報セキュリティはサードパーティによる監査と厳格な国際業界標準の認定という形で実現されます。Virtustreamクラウド サービスは、品質に関するISO 9001、ビジネス継続性に関するISO 22301、情報セキュリティに関するISO 27001、クラウド サービス セキュリティに関するISO 27017、PII(個人識別情報)保護に関するISO 27018の認定を受けています。また、Virtustreamのクラウド サービスは、SOC 1、SOC 2、SOC 3、およびHIPAA/HITECH/HITRUSTの証明について監査を受け、PCI DSSおよびCSA STARの認定を受けています。公的機関のためのVirtustream Federal CloudはFedRAMP Moderateの認定を受けています。*

*注 - すべてのサービスがすべての認証を受けているわけではありません 詳細については、Virtustreamまでお問い合わせください。

ビジネス継続性

VirtustreamのGRC(ガバナンス、リスク、コンプライアンス)チームは、Virtustreamクラウド サービスをサポートするすべての機能が、経営管理によって策定されたポリシーや手順に順守し、各基準の統制要件に適合することを確実なものとするため全力を尽くしています。年間を通じて、GRCチームは内部監査、リスク評価、ビジネスインパクト分析を実施し、ビジネス継続性プランニングをテストして、Virtustreamの運用を統制する管理システムを継続的に改善するために経営幹部による評価結果のレビューを行っています。

リスク

Virtustreamは、ISO 27001、FedRAMP、およびリスク評価、リスク対応、およびリスクのレポート機能に関するその他の基準に準拠しています。評価、監査、または脆弱性評価の実施時にIaaSで特定されたリスクは、識別と追跡が行われ、その後、軽減または修復が行われます。IaaS管理ゾーン内の脆弱性の修復は、PCI DSS標準に従って処理されます。

コンプライアンス

Virtustreamは最高レベルのコンプライアンスを提供することに特化しています。情報セキュリティ管理への厳格なアプローチは、Virtustreamの設備管理と運用管理の中核となります。クラウド提供型システムは、グローバル、地域、および業界固有の規制、およびサービス契約に指定された義務を包含する両方の規制基準に準拠している必要があります。すべてのVirtustreamデータセンターが適切な認証を取得し、すべてのデータセンターの技術者が政府のセキュリティ審査に合格しているのはこのためです。

プライバシー

Virtustreamは、お客様のプライバシーを尊重し、お客様がVirtustreamと共有する個人情報の保護に努めます。[Virtustreamのプライバシーに関する声明](#)で



は、VirtustreamのWebサイト(www.virtustream.com)を閲覧し、VirtustreamのWebサイトを介してサービスを利用する訪問者に関する情報をVirtustreamがどのように収集、使用、開示しているかについて記載しています。Virtustreamのプライバシーに関する声明では、Virtustreamのデータ管理者としての活動を示しており、これらの活動が、GDPR(EU一般データ保護規則)の規定などの欧州連合のデータ保護に関する権利にどのような影響を与えるか、どのようにして訪問者が個人情報にアクセスできるか、さらにVirtustreamが個人情報を使用する方法に関する個人の選択肢について記載していますが、これらに限定されません。

透明性

Virtustreamは、コミュニケーションの透明性がお客様との相互の信頼を育み、お客様の信頼を維持すると信じています。Virtustreamは、お客様のデータの処理、保存、保護方法や、誰がアクセス権限を持っているのかなど、お客様のデータがどのように取り扱われるかを明確に把握できるように、クラウドプラクティスに対する可視性を組織に提供しています。さらに、Virtustreamは、主張の証拠を提供できるようにし、ピアとVirtustreamのリーダーシップ間で情報を共有するためのフォーラムを設立しました。Virtustreamが文化と価値に関する基本原則を示すDell Technologiesの行動規範に従っていることも重要です。

監査レポート

Virtustreamクラウド サービスは、多くのリージョナル、グローバル、および業界固有の要件を満たしています。認定の第三者CPA(公認会計事務所)または評価機関(3PAO)によって実施されたコンプライアンスおよび証明監査レポートをご要望に応じてお客様に提供しています。これらのレポートは、主張の根拠

や証拠提出に使用できます。

顧客諮問委員会

VirtustreamのCAB(顧客諮問委員会)は、お客様のシニアリーダーやVirtustreamがオープンな情報交換の機会を得られるように設立されました。CABは、お客様がどのようにVirtustreamのクラウド サービスを現在使用しているか、どのように使用したいか、ビジネス上のメリットおよび成果を高めるためにどのような機能拡張が役立つと思われるかなどについてのフィードバックや方向性を得ることを目的としています。

行動規範

Virtustreamは、Dell Technologies事業グループ全体が従っている行動規範を順守しています。行動規範は、製品、サービス、イノベーションと同様に市場においてDell Technologies事業グループの差別化を図る文化と価値観であるという共通の認識があります。

サービス品質

ミッションクリティカルなアプリケーションをクラウドに導入する組織にとって信頼はセキュリティとコンプライアンスに関するものだけではありません。信頼は、可用性レベルの保証、一貫したハイパフォーマンス、信頼性、プロフェッショナルおよびマネージド サービス、優れたカスタマー サービスなど、Virtustreamクラウド サービスが提供するサービス品質に影響します。

高可用性と耐障害性

ミッションクリティカルなアプリケーションは、いつでもどこでも利用可能でなければなりません。Virtustreamクラウド サービスは、インフラストラクチャレイヤーの範囲を越えるSLA(Service Level Agreement)によって裏付けされたエンタープライズ クラ

Virtustreamクラウド サービスが対象とする認定、証明、フレームワーク、標準、法律は以下のとおりです。

認証/証明	法律/プライバシー/規制	フレームワーク/標準
<ul style="list-style-type: none"> DoD SRG FedRAMP ISO 27001:2013 ISO 22301:2012 ISO 9001:2015 PCI DSS 3.2 HITRUST SSAE18 SOC 1, Type 2 SOC2, Type 2 SOC3 IRAP 	<ul style="list-style-type: none"> HIPAA HITECH CUI ITAR EAR GLBA FISMA GxP 	<ul style="list-style-type: none"> FIPS DISA STIG ISO 27000 NIST 800-53 NIST 800-171



スの可用性を提供します。

Virtustream Enterprise Cloudは、IaaSレイヤーで99.999%（ファイブナイン）の可用性を提供し、SAPなどの特定の本番システムのオペレーティングシステム、データベース、およびBasisレイヤーで最大99.9%（スリーナイン）の可用性を実現します。

信頼性

組み込み型のディザスタリカバリは、Virtustreamクラウドサービスによって標準装備されており、地理的に分散されたプライマリとセカンダリのデータセンター間でコンピューティングとストレージをレプリケートします。

パフォーマンスの保証

Virtustreamは、1000ミリ秒（ms）という低いTier 1ストレージレスポンスタイムのサービスレベルに裏付けされた、アプリケーションレスポンスタイムのパフォーマンス保証を提供します。Virtustreamの特許取得済みのμVM（MicroVM）リソース割り当てモデルが必要なCPU、メモリー、ストレージ、およびネットワーク帯域幅を保証します。プロアクティブなネットワーク、コンピューティング、メモリー、およびストレージ容量の最適化により、常にアプリケーションにとって適切なリソースのサイジングを確保します。

プロフェッショナル サービス

Virtustreamのクラウドの計画、オンボーディング、移行サービスにより、ミッションクリティカルなアプリケーションをクラウドに移行する際のタイムトゥバリューを短縮します。Virtustream Advisorは、Virtustreamクラウドでセットアップを最適化するためのすべてのワークロードを特定し、システム構成を分析してエンタープライズアプリケーションのランドスケープを評価します。ハイパースケールのクラウドプロバイダーは、アドバイザリサービスを提供していないため、企業のIT部門は部門内で独自に行うか、サードパーティにアウトソーシングして行う必要があります。

また、Virtustreamのオンボーディングと移行サービスにより、企業のリスクを軽減し、企業のITサービスの中断を最小限に抑えることができます。Virtustreamが、プロジェクト計画、プロジェクト管理、すべてのアプリケーションとワークロードのドキュメント作成、移動シーケンス、テスト、疑似カットオーバー、最終カットオーバーを担当します。システムの移行が開始された後は、データとアプリケーションの整合性がチェックされます。

システムがVirtustream Enterprise Cloudで本番稼働したら、定常状態に達してから、Virtustream Managed Servicesへの引き継ぎが行われます。ハイパースケールのクラウドプロバイダーは、オンボーディングと移行サービスを提供していないため、企業のIT部門は部門内で独自に行うか、サードパーティにアウトソーシングして行う必要があります。

マネージド サービス

クラウドへの移行が完了したら、プロアクティブなインシデントイベントの管理、監視、アラート、トラブルシューティング、およびクラウドに関連するその他の範囲設定済みのマネージドサービスによって、Virtustream Managed ServicesがIaaSレイヤーからオペレーティングシステム、データベース、Basisレイヤーまで、完全に管理された高度なクラウドサービスを提供します（24時間365日）。ハイパースケールのクラウドプロバイダーは、マネージドサービスを提供していません。個別のエンゲージメントの一環として、企業はハイパースケールのパートナーネットワークを通じてフラグメント化されたマネージドサービスを選択しなければなりません。

お問い合わせ先

Virtustreamの詳細については、info@virtustream.comにお問い合わせいただくか、www.virtustream.com/intl/ja-jp/をご覧ください。

Virtustreamについて

Dell Technologies傘下のVirtustreamは、ミッションクリティカルなアプリケーションのクラウドへの移行と実行で世界中の企業から大きな信頼を得ている、エンタープライズクラスのクラウドを提供する企業です。VirtustreamのxStreamCare（プロフェッショナルサービスとマネージドサービス）、xStream管理プラットフォームとIaaS（Infrastructure-as-a-Service）は、エンタープライズ、サービスプロバイダー、政府機関を対象とし、プライベート、パブリック、ハイブリッドにかかわらず、クラウドで稼働する複雑な本番アプリケーションのセキュリティ、コンプライアンス、パフォーマンス、効率性、利用量に応じた請求などの要件に対応しています。

